



福祉公社は、武蔵野市が全国に先駆け、昭和55年に設立した在宅サービス提供機関です。

誌名「羅針盤」はご利用者を包括的に支援し、その人生と共に歩むサービスの基本姿勢を表したものです。

節分を寒ばなれと呼ぶ土地がありますが、まだまだ厳しい余寒が続きます。しかし、日毎に日脚の伸びを体感し、浅い春の足音を聞きます。天に宿るあかるさがそれが生み出しているかのようです。

毎年のことながら、インフルエンザなどの感染症には要注意の時期です。



皆様にはくれぐれも御身お大切になさってください。

<紙面から>

ケアリミック武蔵野2018 最優秀賞・優秀賞 受賞・・・1ページ

社会活動センター 茜雲フェスタ 生活支援員連絡会

北町高齢者センター 和太鼓を楽しむ会 ……2ページ

平成30年度事業報告会 投稿「羅針盤を読んで」 ……3ページ

お知らせ リレーコラム ……4ページ

## ケアリミック武蔵野2018

**補助器具センター 最優秀賞**

**デイサービスセンター 優秀賞**

昨年12月1日、恒例のケアリミック武蔵野2018が開催されました。

ホームヘルプセンター武蔵野・北町高齢者センター・高齢者総合センター・デイサービスセンターの各部署に所属する15人が介護・看護永年従事者として表彰されました。



また、高齢者総合センターの補助器具センターとデイサービスセンターが、演題発表部門で最優秀賞と優秀賞を受賞しました。内容は次のとおりです。

補助器具センターのテーマは「今まで通り学問研究したい！～排泄ケア専門員による利用者意思の代弁と実現～」です。

ご利用者は大学教授として教育と研究に実績を残し、92歳にしてもなお講演等でご活躍中の男性です。疾患により膀胱留置カテーテル使用となり、社会活動に支障を来すようになりました。そこで排泄ケア専門員が、専門的見地からご利用者の在宅生活の状況、残存能力等を把握し、適切な対応策を提案、ご利用者と医療機関を仲介して、ご利用者が希望する生活の実現を支援した実践です。ご利用者の暮らしの場を知る支援者が、生活課題を専門的観点から整理し、医療者と利用者の双方の代弁者の立場に立って、意思疎通や理解を仲介した点が本事案の眼目です。

デイサービスセンターのテーマは「あなたがいてくれてよかった！～不安の訴えが強い利用者への統一したケア体制の構築～」です。ご利用者は82歳、女性。常に不安で訴えの強い方です。ケアサービスを提供する上で、ご利用者の身になってその不安の発生原因を探り、ケアチームが情報を共有し、柔軟性のある統一されたチーム体制を構築して、状況に即した対応をした事例です。

この実践により他のご利用者がスタッフに代わって、次のプログラムの説明をするなど、ご利用者同士の相互扶助も生まれ、デイサービスと言う小さな社会が誰にとっても心地よい居場所となりえました。



デイサービスセンターは過去4回のケアリミックで最優秀賞1回、優秀賞2回を受賞しているケア実力を誇っています。

この受賞を励みとし、福祉公社の各部署は、今後も市民福祉の向上に精進いたします。



## 高齢者総合センター 社会活動センター 茜雲フェスタ



昨年11月8日、9日に茜雲フェスタを開催いたしました。従来の秋のふれあい文化祭での講座発表は講座の前後期制への移行等から別に実施し、カラオケ発表会、茶道講座受講者によるお茶会、世界の歌講座・青木裕史講師による「鐘よ鳴れ！ 薔薇よ歌え！」コンサート、デイサービスセンターの作品展を茜雲フェスタとして実施しました。多数の方にご来場いただきました。



カラオケ発表会では、22名の参加者が自慢ののどを披露しました。舞台は和服やドレスなどきらびやかな衣装を身にまとった女性陣の登場で、一層晴れやかな場になりました。プログラムの最後には、参加者、来場者全員で「上を向いて歩こう」を大合唱。笑顔あふれる発表会でした。



お茶会には雨天にもかかわらず多くのお客様がお越しく下さいました。「初めて和室に入ったけれど、茶道講座がこのようなことをしているとは知らなかった。感激したわ」などのご感想をいただきました。おもてなしに当たった受講者の皆様は「お茶会は疲れた～でも楽しかった～」とご満足気でした。

コンサートは青木講師の熱唱と山上講師のピアノが聴衆を魅了し、満員の来場者もアンコールを熱烈に求め大盛況でした。

デイサービス作品展では、ご利用者が心をこめて制作した数々の作品が展示されました。ご覧になった方からは「丁寧に心をこめて作った作品ばかり。すごいね」「作品に個性が出ていて良かった」などご評価を頂きました。



茜雲フェスタとしてリニューアルしたイベントをより楽しめるように、来年度も工夫を凝らして、皆様とともに作り上げて行きます。



## 平成30年度 生活支援員連絡会開催



地域福祉権利擁護事業（日常生活自立支援事業）の生活支援員連絡会が、11月16日に開催され、7名が参加しました。

生活支援員は、専門員（福祉公社の常勤専門職）のフォローを受けつつ、定期的にご利用者を訪問し、生活費を届け、郵便物を確認して必要な手続きを共に行うなどの市民支援者です。

当日は、1月開始の7市合同市民後見人養成講座の受講案内の他、意見交換も行われました。

支援員はご利用者ニーズがある場合だけ活動していますので、中々、横のつながりがなく、連絡会は意見交換や情報共有のための貴重な機会・場と言えます。

「話が長くなり、なかなか帰れない場合、支援をどう切り上げればよいか」など対人サービスの様々な悩みや課題が話題となり、支援内容の振り返りにも役立ちました。

連絡会終了後、福祉への想いを同じくする皆様は、スッキリと晴れやかな表情に。

それぞれが市民的立場で、伴走型支援の難しさとそれゆえのやりがいを、改めて実感していました。

福祉公社は皆様をしっかりとサポートし、共により良いサービスを提供します。



## 北町高齢者センター 和太鼓を楽しむ会



1月23日、市役所の現役・OB・OG保育士の演奏演舞集団・和太鼓SOHをお招きしました。躍動する荒馬踊りから篠笛の演奏、沖縄民謡まで入魂のパフォーマンスを堪能。途中で獅子舞が登場、新春を寿ぎました。みずきっこからは5組の親子も参加。迫力ある演奏に、興に乗り、楽しそうに太鼓を叩く仕草をするお子さんに、一同、大喜びでした。

SOHの皆様、新春からパワーを頂き有難うございました。



## 平成30年度 事業報告会 開催



昨年11月16日、恒例の事業報告会を開催しました。

これは職員が他部署の事業を相互に理解し、またその資質、サービス提供能力等を向上させるため、毎年1回開かれるものです。

各部署が事業の内容、課題、取組み実践などを共同してまとめ、発表します。

その過程で深い思索や大きな気付きなどがあり、福祉公社の重要な研修として位置付けられています。

今年はゲストとして、初めて理事、評議員、市の関係課長、市民社会福祉協議会職員をお招きしました。ゲストの皆様のご感想は、



「日々の業務を通じて課題を整理し対応策を検証していること、常に課題と向き合って解決策を練っていることが素晴らしい。法人全体が本当に仕事を大切に、職場を愛しているのだなあと思う」「全体として、のびのび仕事をしている様子がよく伝わった。誰のために何のために、という最も大切な意識は十分なものがある」「とても前向きに仕事に取り組んでいる姿が、短い発表の中で見られた。常に課題を見つけ、前進しつづけている、そして周りを包容していく仕事を皆さんでなさり、すばらしい職場である」などです。



職員の真摯な業務姿勢に対しご評価・ご理解を頂戴し、有難く存じます。

次号以降で各部署の発表を順次掲載する予定ですが、以下は昨年度の事業報告会に対する福祉系大学の研究者からのご投稿です。

伝統の福祉公社魂への言及に喜びを感じます。



優勝

デイサービスセンター  
寸劇を交えた発表

理事長賞 ケアプランセンター

特別賞 ホームヘルプセンター武蔵野

### 羅針盤を読んで ～誇り高き福祉公社人と福祉公社魂に快哉～



毎回、通信紙「羅針盤」を楽しみにしています。9月号3面の事業報告会その6「在宅介護・地域包括支援センター」のごみ屋敷に関する記事を読み感銘を受けました。

孤立している単身高齢者は全国どこにでもおられ、その多くがごみ屋敷となり、近隣住民や地域から差別を受け、嫌われ者として排除されています。このような方々の支援は、悪臭とハエが飛びまわる部屋のゴミの山に平然と座り、同じ目の高さで1時間でも2時間でもじっくり話を「聞く」ではなく、「聴く」ことから始まるものと思っています。

報告は軽いタッチで綴られていましたが、担当者は「どうして分かってくれないのか…」「もういやだ…逃げたい」「でも仕事だからやるしかない…」などと何回思ったか、葛藤の繰り返しがあったことは容易に想像できます。しかし、それにもめげずゴミの山に座って相対した人に与えられたものは、この方からいただいた「…自分にとって特別な存在なんだ」という、素晴らしいご褒美でした。いうまでもありませんが、そのご褒美は、バックアップをした職場のみなさんにも、与えられたものです。これぞ福祉公社、さすが福祉公社人と秘かに快哉を叫びました。

福祉公社の理念には「広く高齢市民のニーズを把握し、それらに対し行政機関では果たし得ない、きめ細かな相談や心理的支援をおこない、すべての市民に安心できる老後生活を保障することを究極の目的とする」が掲げられています。

これからも「誇り高き福祉公社人」として、差別と偏見により排除されながらも社会の片隅で必死に生きている方々を支えるために、益々「福祉公社魂」を発揮されることを確信しています。



## 会社からのお知らせ

### 老いじたく講座 ～ 成年後見制度について ～

誰にでも訪れる老いに備え、元気なうちから準備して、尊厳ある老後生活を築きましょう。

日時 2月28日(木)13時30分から15時  
場所 福祉公社 1階会議室



### ～ エンディングノート 書き方講座 ～

想いを記すことは残された人々への指針

日時 3月15日(金)13時30分から15時  
場所 福祉公社 1階会議室



問合せ 在宅サービス課 権利擁護センター  
申込 ☎ 23-1165 参加費用は無料です。

ご寄附を有難く拝受しました  
匿名希望(遺贈) 30,000円  
横川 眞理子様 100,000円

### ～ホームページ、Twitter 始めました～

このたび、新たにホームページおよびTwitterを開設いたしました。是非ご覧ください。

武蔵野市地域包括ケア人材育成センター  
URL <http://www.m-machigurumi.jp/>  
@m\_jinzai

ホームヘルプセンター武蔵野  
URL <http://help-musashino.jp/>  
@m\_homehelp

TwitterのロゴはTwitter, Inc.またはその関連会社の登録商標です

## 職員リレーコラム

### <エキストラ>

ホームヘルプセンター武蔵野 庄山 美恵子

数年前まで、趣味でエキストラに参加していました。エキストラにはボランティアと登録制があり、前者は無償、後者は有償です。私は自分の好きな俳優と共演出来たり、俳優の生演技を目の前で見られたり、物作りの現場に参加できるという理由で参加していました。



参加した有名作品は「ゴジラシリーズ」「ルーキーズ」「仁」「Mr.ブレイン」等で、佐藤健さんや木村拓哉さん等と共演しました(木村拓哉さんとは同じ画面にばっちり映っています)。真冬の屋外で夏の服装で暑そうにしている演技を要求されたり、1日かかりで30秒ぐらいのシーンを撮影したりと大変でもありますが、日常とは違う世界を垣間見られてワクワクします(運が良ければロケ弁が食べられたり、エンドロールに小さく名前が出たりします)。ボランティアエキストラは、頻りに募集がかかっていますので、興味がある番組があったら、皆さんも作り手側からの参加をしてみると、世界観が広がるかもしれませんよ♪ ⇒ 次回は 権利擁護センター 横山 由美子

編集・発行 公益財団法人 武蔵野市福祉公社

次号は平成31年3月8日発行予定です



### 福祉公社ホームページ

URL <http://www.fukushikosha.jp/>

武蔵野市地域包括ケア人材育成センター

URL <http://www.m-machigurumi.jp/>

ホームヘルプセンター武蔵野

URL <http://help-musashino.jp/>

### 武蔵野市福祉公社

武蔵野市吉祥寺北町1-9-1

バス停「武蔵野八幡宮前」下車 ☎0422-23-1165

(総務課 権利擁護センター ケアプランセンター)

☎0422-23-2611 (ホームヘルプセンター武蔵野)

☎0422-20-3741 (地域包括ケア人材育成センター)

### 武蔵野市立高齢者総合センター

東京都武蔵野市緑町2-4-1 バス停「武蔵野住宅」下車

☎0422-51-1975 (管理・社会活動センター)

☎0422-51-1974 (在宅介護・地域包括支援センター

・補助器具センター)

☎0422-51-2933 (デイサービスセンター)

### 武蔵野市立北町高齢者センター

東京都武蔵野市吉祥寺北町4-1-16

バス停「北町四丁目」から徒歩三分

☎0422-54-5300

業務時間 8:30~17:15 (全て共通)